

あなたは信じますか

# 地震は地下の爆発

新・庶民科学講座

火山や地震は地下の爆発現象が現れたものである事を江戸時代の識者は知っていた。地下水や海水が地殻の隙間を流れ落ちマグマ溜りに高温高圧の加熱蒸気となり、2000℃を超えると水素と酸素に解離し始め巨大地下空間で水素爆発する。これが地中で起こると地震。地上近くで起こると火山噴火。地上に抜け出すと温暖化。大陸隆起沈没がポールシフト

2021 (3) 10/11 No.002

※第1号からお送りしている地震シリーズは、地震爆発論を解く石田昭工学博士了解のもと、石田理論をもとに書いています。国立国会図書館カウンターに「真理は我らを自由にする」と書かれています。誤謬から出たものは全て悪とつながる。真理は善とつながる。本当の事を知ると心が晴れると思える人に！

## 地震爆発論とは

石田昭著・「熊本地震にみる地震学の矛盾」から地震発生メカニズムのイメージ図をお借りして地震爆発論の説明をすると、私たちが住んでいる地面の下は

① 解離層は通常は安定しているが、圧力減、温度上昇で上方に移動する。



均一では有りません。一般に土

と言われる草が生えている所の下は粘土、砂、小石、瓦礫状の層になっていて小石や瓦礫状の隙間に水が溜まったり流れたりしており地下水と呼ばれています。この水が①図のマグマ溜りに向かって徐々に熱水となり水蒸気となり流れ込むと水素と酸素に解離し、地下空間を大きく膨張させる程大地震となります。それが下の②図です。この時期

② 解離層が上がると水は水素と酸素に分離し、解離水(爆鳴気)を作り、周辺温度はいったん下がる。



に動物やミミズ、深海魚、また発光現象や方位磁石が狂う、異常に蒸し暑い、ガスの匂いがする等の地震の前兆現象が発生します。

地上から約100km下迄が地殻という岩盤で出来ているのですが、月の引力によって海水だけが引き寄せられるのではなく、この硬い岩盤も1日に2回の満ち引きの度に、歪められてひび割れを起こします。ですから世界中にひび割れを伝えてマグマが上がって来てマグマ溜りが出来ています。当然地下水もひび割れを伝えてマグマと出会います。毎日世界中で沢山の地震が起こっているのはこのためです。

そして、とうとう限界を超えたところで大爆発を起こします。

③ 温度が回復すると爆鳴気に着火し、爆発・地震が発生する。爆発により地割・ひびわれが発生し地盤が隆起する。



それが地震③図です。地球内部は未だ未だドロドロに溶けた溶岩の状態を保っているのです。アポロ宇宙船が月面に置いてきた地震計も地震波をキャッチしています。水蒸気爆発ではないかも知れませんが、恐らく地球と同じカラクリで地震が起きている筈です。月も未だ完全には冷え固まっていない証拠です。

④ 結合反応で減圧し、マグマ溜りは潰れてマグマは上昇する。この後に火災が発生する。



地下爆発により地上近くや地上に断層が出来ます。断層は地震の結果④図の様に生ずるもので、決して断層が地震を起こすもの

ではありません。断層にその様なエネルギーは有りません。地震が収まってから数日かけて徐々に畑の中に断層が出来たという報告も有るくらいです。

余震はこのマグマ溜りの空洞に地下水（淡水、海水共に）が流れ入ってエネルギーが発生する間中、余震が起こります。そのうち空洞は小さくなり、人体では感じない爆発をする程度のもになっていきます。一度このマグマと地下水の道筋が出来てしまうと簡単には消えて無くなる事は有りません。爆発によって地下空間どうしの隙間が潰れてしまうと地震は起こらなくなります。

地下爆発が起きる地底では、高温高圧状態のため、飴のように柔らかくなっている地殻岩盤も有ります。爆発の度に褶曲され、その部分が隆起して冷え固まると褶曲地層が現れます。冷え固まった岩石や土は押しても砕けるだけで、綺麗な褶曲模様は出来ません。

次回は世界各地で行われている二酸化炭素の地中封入（CCS）事業による地震発生疑惑についてのテーマでお送りします。

お楽しみに（笑）